

MISHIMA INTERNATIONAL
RELATIONS ASSOCIATION

MIRA 通信

<https://mishima-life.jp/mira/>

No. **114** 2020年

令和2年9月15日発行

三島市国際交流協会

〒411-8666

静岡県三島市中央町5-5

三島市役所中央町別館

TEL (055) 976-1020

FAX (055) 976-1021

9月以降の協会行事の実施状況

(9月7日現在)

月	日	行 事	会 場	実施状況
9	4日～11月27日	日本語の教え方講座(秋コース)	中央町別館会議室	秋と冬、2回実施
10	1日～14日	三島・パサディナ交流展2020	市民文化会館	内容を変更して実施
	8日～13日	伊藤秀海・姉妹都市写真展 “三島とニュープリマス”	Gallery701	実施予定
	10日	フラワーアレンジメント講座	生涯学習センター第4研修室	会場、人数を変更して実施
	18日	第57回姉妹都市親善 英語スピーチコンテスト	市民活動センター	会場、発表形式を変更して実施
11	3日～12月15日	語学講座(スペイン語、中国語、韓国語)	生涯学習センター研修室	実施予定
	8日	第9回ふれあいフットサル大会		中止
	29日	MIRAオータムフェア ～世界が三島にやってきた!～	楽寿園	新春交流パーティー代替実施
12	6日	第3回友好都市親善 中国語スピーチコンテスト	市民活動センター	会場・発表形式を変更して実施
1	8日～3月26日	日本語の教え方講座(冬コース)	中央町別館会議室	秋と冬、2回実施
	—	ニュープリマス・スポーツウッド校来島		未定
	31日	新春交流パーティー		中止
2	—	麗水市中学生友好交流団来島 (景寧中学、花園中学)		未定

今後の状況により中止・延期・内容変更となることがあります。



カンボジアから 手作りマスク届く

三島市出身の内田隆太さんが代表を務めるNGO団体「Share the Wind」は、カンボジア王国のリエンボン村に小学校を建設し、子どもたちの教育や生活・就労支援活動を行っています。(活動内容は、MIRA通信103号7ページをご覧ください。右下のQRコードからアクセスできます。)

せせらぎ三島ロータリークラブではこの活動を支援しており、去る2月現地を訪れて、ノートや鉛筆などの文具セットやサッカーボール、電動ミシンを贈りました。

そして6月、支援活動のお返しとして、在仙台カンボジア王国名誉領事館を通じ、手作りマスク1000枚が届きました。市児童クラブ、市外国籍市民相談窓口、のびっこクラブみしま、三島日本語サークルなどに配布され、活用されています。

みなさまへ

2019年1月から2020年2月、せせらぎ三島ロータリークラブ様がカンボジア教育・生活支援活動として、NGO団体「Share the Wind」内田隆太代表様を通じカンボジア王国のリエンボン村の小学校にノートや鉛筆、サッカーボールなどを贈呈し、リエンボン村に電動ミシンを贈りました。そして6月、支援活動のお返しとして、カンボジアから手作りマスクが届きました。

みなさまのご健康をお祈りし、ここにお贈りさせていただきます。

2020年6月吉日

在仙台カンボジア王国名誉領事館
名誉領事 田井 達



在仙台カンボジア王国名誉領事館
田井進名誉領事からの挨拶状

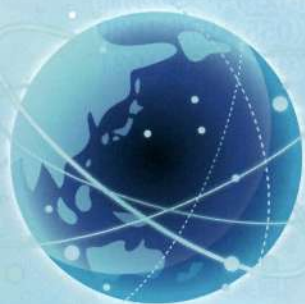


カンボジアから届いたマスク



MIRA通信
103号7ページ

各委員会の活動紹介



会員の皆さん、委員会活動に参加して、ゆかいな仲間と一緒に、楽しみながら国際交流の輪を広げませんか！

協会には、現在4つの委員会があり、委員会が中心となって協会の諸事業を企画・運営しています。皆さんも、委員会に入って、協会の運営に携わりませんか。お待ちしております。

総務委員会

- 総会・理事会・運営会議等の司会運営
- 国際交流フェアやフットサル大会など、各委員会が協力して実施する行事のとりまとめや受付、司会など
- 語学講座の企画設定
- 英語・中国語スピーチコンテストの企画運営
- 協会の運営にかかわる諸事のとりまとめや外部との折衝など

都市交流委員会

- 姉妹都市（バサディナ市・ニュープリマス市）
 - ・ 友好都市（麗水市）との交流事業の運営・協力
 - ▶ 青少年交流事業（フレンドシップ）への協力
 - ▶ 交換留学生・研修生・中学生友好交流団の交流事業への協力
 - ▶ 姉妹都市・友好都市の公式訪問団の受入れや派遣事業協力
 - ▶ ホストファミリーの募集・歓迎会や催事の企画運営

問合わせ・委員会参加希望は 三島市国際交流

玲子スミザースさん「在外公館長表彰」受賞

ニュープリマスの村上スミザース玲子さんが、このほど、「在外公館長表彰」受賞者として表彰されました。同表彰は、ニュージーランドにおいて長年に亘り貢献または善行を行ったと認められる方または団体を顕彰することを目的としています。7月15日（水）ウェリントンの大使公邸にて授賞式が行われ、小林弘裕在ニュージーランド日本国大使から玲子さんに表彰状と記念品の飾り皿が授与されました。



小林大使と玲子さん（左）



あなたはどの委員会?!?!
皆で盛り上げよう、MIRAのイベント!!



在住外国人交流委員会

- 在住外国人との交流を通じ、その国や文化等を理解する事業の企画・運営
 - ▶ 新春交流パーティーの企画・運営
 - ▶ フラワーアレンジメント講座の開催など
 - ▶ 在住外国人とBBQパーティー
 - ▶ 日本語の教え方講座開催
 - ▶ 日本語サークル支援

広報委員会

- 広報誌「MIRA通信」の発行
 - 編集会議・取材・インタビュー・記事執筆・写真撮影・記事のレイアウト・校正など
- ホームページへの情報の掲載・メンテナンス
- 行事のポスターやチラシの作成



総務委員長
望月 真弓さん



都市交流委員長
岡 良森さん



在住外国人交流委員長
山本 寿美子さん



広報委員長
金子 諭さん

協会事務局へ ご希望を伺って各委員会を紹介します

錦田中で出前講座

異文化理解・多文化共生を学ぶ

7月2日、錦田中学校において、3年生を対象とした出前講座（そよかぜ学習）が行われました。テーマは、異文化理解・多文化共生。講師を、中国・北京市出身の李寧さん（三島市国際交流室職員）とアメリカ・ミシガン州出身のヴァーラ内田エイドリアンさん（日本大学国際関係学部助教）が務めました。李さんは、「三島にも大勢の外国人の人、外国にルーツを持つ人がいて、皆さんの周りにもいるはず。彼らとの違いは言語・教育・信条（宗教）などで、日本人が当然と思っていることが彼らには当然ではないということがたくさんある。互いに文化的違いを認め、理解し、対等な関係を築くことが重要」と話しました。ヴァーラさんは、「世界の人とコミュニケーションするのに、英語はとても重要。英語を理解すれば、ネットで世界中の情報を得られるし、世界中の映画や音楽などに触れることも出来る。外国人の友人を作ること（私みたいに結婚することも）出来る。一方で、忘れてはいけないのは、外国人はだれでも英語が出来るわけではないということ。世界には、色々な人がいる、外観だけで判断してはいけない」と話しました。異文化理解・多文化共生というのは言葉では簡単そうですが、自分の常識と違うことを受け入れるというのは、結構大変で、難しいことです。今回の講座で、まずは、自分とは異なったものがあるということを知り、それに興味を持つことが重要なのだと感じました。



錦田中での出前講座の様子



ユーモアを交えて話すヴァーラさん

James Molloy - MIRA Newsletter #25

JIMのみしまものがたり(25)

オンライン学習

前回のMIRA通信発行から3カ月が経った現在、マスク着用、手の消毒、人との間隔をあける…など、世の中は新しい生活様式に沿って新型コロナウイルス感染症の予防対策に取り組んでいます。

新型コロナウイルス発生前の生活に戻ることが難しいなか、日々を楽しむための新しいスタイルが構築されています。オンラインヨガを始めたり、以前より料理に手間をかけたり、または自宅をスポーツジムにしつらえたり。人々はこの状況下で有効に時間を活用しようとしています。



私もためになりそうなオンライン講座をサーチしています。少し検索しただけでも、写真撮影、デザイン、音楽や語学学習など、楽しくて興味深いものばかり。中でも一番興味を惹かれたのは、ハーバード大学の88講座が無料で提供されているということ。インターネット接続ができるデバイスを持っていれば、ハーバード大学の超一流の教授陣による神経科学、世界文学、起業家精神学、プログラミング、医学、法学…といった多彩な講義が、いつでもどこでも無料で受講できるなんて、すごい時代になったと思いませんか。

日記を書いたり、新しい味やレシピに挑戦したりしながら、私のサーチはまだ続きます。先日は20年ぶりにクラシックギターの弦も張り替えたんですよ！

MIRA通信をお読みの皆さんの中にも、コロナ禍以来何か新しいことを始めたり、これから何か始めようとしている方が多いと思います。それが何であれ、きっとこの時期を乗り切る術となってくれることでしょう。それではどうぞお元気で。



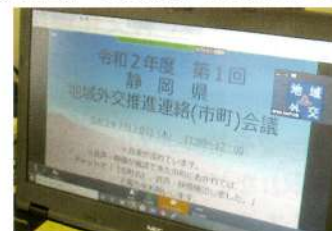
静岡県地域外交推進連絡会議がオンラインで開催

静岡県地域外交推進連絡会議が、7月30日、県内の市町を結びオンラインで開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、国を超えた往来が制限され、国際交流事業の推進が困難な状況が続くなか、県と市町の取組み内容について情報共有や意見交換をする場として、県地域外交課が主催して実施されたものです。

2月から3月に予定していた強化合宿が、感染拡大で航空便が停止し帰国できず、合宿を延長して練習のみの生活を119日間続け、ようやく6月にチャーター便で帰国できたモンゴルのパラナショナルチーム。市民から、食料・マスク等の支援があったとの焼津市の報告。島田市の国際交流協会では、Zoom（オンライン）を使って英会話やモンゴル語・韓国語の語学講座（各5回）を実施、市内ばかりでなく、市外・県外からの申込みもあった。など、興味深い事例も報告されました。

1年延期となったオリンピック・パラリンピックに関しては、県の担当課から、気運を維持するため、SNSを活用し情報発信強化に努めている。各国とのつながりを持ち続けられるように取り組みたい、との説明もありました。

なお、三島市からは、国際交流室の小嶋主事が、会議に参加しました。



麦畑（編集後記）

★MIRA通信は、今号も4ページに縮小してお届けします。長期戦のCOVID-19。外出自粛ですっかり外食なし。友人らとの飲み会がどれほど心身の健康に役立っていたのか、よくわかりました(S)

申込み・問合せ

★ 三島市国際交流協会（MIRA）事務局
TEL 976-1020 FAX 976-1021
★ 三島市国際交流室
TEL 983-2645
三島市中央町5-5三島市役所中央町別館

